

JAL社員の働き方から 「会社で働く」を考える。

●立命館守山中学校

稲盛講座「JAL再生から考える
『会社で働く』ということ」

2016年度、立命館守山中学校にて、1年生158名を対象に、学年団の先生方とRITALABOのコラボレーションで「稲盛講座」を開催しました。

1学期の「稲盛和夫氏の青少年期に学ぶレジリエンスの授業」に続き、2学期には4時間にわたり、経営破綻を乗り越えたJALグループ社員が考え方や行動を変え、どのような思いで働いているのか、「会社で働く」をテーマに授業を行いました。

授業のポイント

- 働くことの意味、会社・組織での働き方を伝える。
- 中学生にもイメージしやすい企業・JALの協力による「生きた教材」を活用。
- グループワークとICTを連動。大人数ながらインタラクティブな授業に。

1時間目（2016年10月16日）

会社という場所

― 人生の8万時間を過ごすところ ―

「会社で働くこと」を考える導入として、「一生のうちで働く時間8万時間」「大人が働く理由」「勤務形態の割合―個人か組織か―」をイメージしてもらうことから始めました。ICT(ロイノート)を使って、生徒たちの「働くこと」への意見を集約、共有。その後、今回題材とするJALについての概要、歴史（誕生から破綻、再生）を伝えました。

生徒たちに「会社はどのようなところだと思いますか？」と聞いたところ、予想通り、ネガティブなイメージが半分近くありました。ここから4時間かけて、会社で働くということの意味を知り、キャリアの展望を持つってもらうことが、この授業の狙いとなります。

2時間目（2016年10月23日）

企業活動とは？

― 何を大切にして働いているのか ―

社員が安心して働くために必要な考え方として、JALグループの企業理念（P5）を紹介。その上で、企業活動を継続していくためには、お客さまにいい商品・サービスを提

供することによ

って愛され

続ける（選ば

れ続ける）こ

とが重要であ

ること、定時

運航への取り

組み、客室乗

務員のサービ

スの事例を伝え

ました。

その後、「君たちが航空会社の社員だったら、愛され続ける企業となるためにどうすればいいか」「現場の社員としてサービス向上のためにどんなことができるか」という質問を投げかけ、グループワークで話し合った後、数名に発表してもらいました。

3時間目（2016年11月17日）

フィロソフィ（哲学）をもって働く

― サービス・ものづくりに携わる

すべての社員が持つべき考え方 ―

前回、具体的事例で働くイメージを持ってもらったので、今回は働くこととのバックボーンとなる考え方についてみんなで考えました。

JALグループでは、社員が持つべき考え方「JALフィロソフィ」を定めており、それが共通の価値観や言語となつて、社員同士が協働して働きやすくなったことを実践事例



で紹介。より身近に感じてもらうために、JALフィロソフィの中で共感するものを挙げて、その理由をグループワークで話し合いました。

どのJALフィロソフィに共感しますか？

前向きになれたり、がんばりにつながるフィロソフィに素直に共感する生徒が多く、自分なりにかみ砕いて理解していました。

- 「昨日よりは今日、今日よりは明日」(15人)
- 「地味な努力を積み重ねる」(14人)
- 「本音でぶつかれ」(12人)
- 「美しい心をもつ」(10人)
- 「常に明るく前向きに」(8人)
- 「能力は必ず進歩する」(8人)

生徒の感想

- 会社はどちらかというマイナスなイメージがあったけれど、JALの会社の雰囲気を見て、プラスのイメージが変わった。よりよいクラスにするためにできることは何か、渦を起こすにはどうすればいいか、考えたい。
- 人生の中でつまずいても、発想の転換をすることで、よい方に進むかもしれないと思いました。
- 会社は考え方を変えれば楽しいものだとわかりました。JALはすごい会社だとわかりました。
- JALの復活は、稲盛さんのやり方もよかったと思うけれど、一番は、社員全体の気持ちが一つになっていたから成功したのだと思う。
- 普段は会えない、地味で目立っていない人がしていることの重要さがわかってよかったです。

RITALABOの思い

立命館守山中学校では、「稲盛講座」として、1学期には個人のレジリエンス、2学期には組織のレジリエンスとフィロソフィ(哲学)について、稲盛氏自身の生き方、そして稲盛氏がリードして社員の手によって再生されたJALを通して、子どもたちの考えを問い、話し合う授業を展開しました。稲盛氏が著書や講演でいつも言及される「考え方」や、人を守る「利他の心」の大切さと、それがもたらす苦境を乗り越えるしなやかな強さ、そして会社という組織では、何人もの人々の力が合わさって大きな協働の力になることを、皆で学び合うことができたと考えています。



「実在の企業を題材にした授業を、専門の研究員の方から直接受けることができ、有意義な取り組みになりました。」(学年主任・犬飼龍馬教諭)

4時間目(2016年11月24日)

JALフィロソフィのひとつ

「渦の中心になれ」に学ぶ

個人の意識変化と社員の連携

研究を進める中で、意識改革により活性化した職場では、「渦の中心になれ」を体現する風土(P12)が醸成されることがわかりました。この研究結果を具体的な教材にして伝えることにより、本授業の締めくくりにして、生徒自身が自ら渦をつくることを考え、クラスや部活動、地域や家庭でアクションを起こすことを考える時間としました。

授業の最後に、1時間目と同じ「会社はどのようなところだと思えますか？」という質問を投げかけてみる

と、ネガティブな意見は大幅に減り、ポジティブな意見が9割を超えました。会社で働くことに対するイメージがクリアになるとともに、みんなが協力して目標に向かって働く社員の姿への共感が育ったようです。

クラスや部活で、どのような渦を起こしたいですか？

- クラス全体が明るく楽しくなる渦。
- みんながやる気のない時に、一番早くに教室を出て「やろう」と呼びかける。
- 部活はしんどいけど、励まし合ったり、がんばる姿勢を見せることで、みんなが一緒にがんばろうと思える渦。
- 2年生になったら後輩が入ってくるので、後輩に尊敬してもらえるようにがんばること。

会社はどのようなところだと思えますか？

この授業を通して、会社についての子どもたちのイメージは大きく変わり、ポジティブな考え方や行動ができる場として会社を捉えるようになりました。左はポジティブな回答の例。

- 最初は上司の言うことを聞いて仕事をするためだけのところだと思っていましたが、上司と協力して仕事を完成させるところだと思った。
- しんどくて面倒なところだと思っていたけれど、それを乗り越えることが楽しみに変わっていくところ。
- みんなで助け合い、本音でぶつかることと、社会に貢献していくところだと思えます。
- みんなで相談しあって、お客さまを喜ばすためにどうすれば良いかを考え、提案し合うところ。